

新年のご挨拶

(平成 30 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会より)

会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会
会長 横塚 裕志

新年明けましておめでとうございます。

本日は世耕経済産業大臣を始め経済産業省の幹部の皆様方、また多くの団体の代表の方々にお越しいただいています。本当にありがとうございます。

今年はどのような年になるでしょうか。ラスベガスで開催されているイベントでトヨタ自動車は、自動車製造メーカーをやめて、移動サービスの会社にシフトしていくということを高々と宣言されました。

デジタルトランスフォーメーションは、少し時間はかかると思いますが、製造業がサービス業にシフトしていく。自動運転あるいは電気自動車など、デジタル技術によってビジネスが大きく変革されていこうとしていると感じます。

昨年秋ぐらいから日本の銀行業界におきましても、テクノロジーによって支店戦略を大きく見直すということで、職員の数を相当減らしていくというニュアンスの報道もされています。すべての産業界において大きなデジタル変革が具体的なものとなる年になりそうです。このデジタルトランスフォーメーションをサポートしていくのが、われわれ IT 業界であります。

エンジニアの 75%はわれわれベンダー側にいますので、われわれがユーザー企業のデジタルトランスフォーメーションをしっかりとサポートしていく事が最大のミッションですし、今年はますます具体的にやらなければならない年になると思います。

デジタルトランスフォーメーションについて、ユーザー企業は 3つの戦略で考えていると私は見ています。一つは、トヨタ自動車のように、既存ビジネスモデルから新しいサービス型のビジネスモデルにユーザー企業を変えていく。新しいビジネスモデル、新しいマーケットを作っていく戦略です。

二つ目は、既存のビジネスをデジタルを使って競争力を挙げていく戦略です。例



えば、ディープラーニングを使ってビジネスを新しく変えていく、ブロックチェーンを使って自らのビジネスをデジタル型にシフトしていくなどということが想像されます。既存のビジネスのデジタル化は各産業界でいろいろな形で行われるのではないかと思われま

す。三つ目は、イノベーションを進める上での企業カルチャー、必要とされる人材をどう確保するか、意思決定をいかにして失敗を乗り越えてやっていくか。そういった会社にどう変革していくかです。この三つの問題について各ユーザー企業が具体的に進めていくと思われま

す。最初の二つ、特に既存ビジネスのデジタル化はわれわれのマーケットの範囲ですから、しっかりサポートしなければなりません。既存のマーケットにおいてもデジタル化しなくてはならない分野が数多くあり、ブルーオーシャンのマーケットが多く眠っています。われわれがここをやらない限り、日本企業のデジタル化が進まないと感じています。

日本企業のデジタルトランスフォーメーションを推進していく大きな旗印として、11月7、8日にASOCI02018が開催されます。アジア24カ国のIT団体が東京に集まり、デジタルトランスフォーメーションについて語りあいたいと思っています。

JISA 会員企業がデジタルビジネスにしっかり取り組めるよう、JISA としてサポートしていきたいと考えています。今年もよろしく願いいたします。

来賓挨拶

経済産業大臣
世耕 弘成

新年あけましておめでとうございます。本日は情報サービス産業協会の賀詞交歓会ということで、このようにたくさんの関係者がお集まりのもと、盛大に開催されたことを心からお祝い申し上げます。情報サービス業の売上高も前年に比べて堅実に伸びていると聞いています。しかし、一方でソフトウェア・IT人材の不足ということも言われているわけでありまして、こういった問題も皆さんと一緒に解決していかなければならないと思っています。



先日、プログラミングについてどのような場で学べるかという事を調べましたら、角川ドワンゴ学園がやられているN高等学校というネットの高校では、リモートでタブレット上で一から十まで勉強できるようなカリキュラムがあり、いろいろな勉強のカリキュラムがあるのだなと痛感したわけであります。

また、安倍政権ではリカレント教育として、いったん社会人になった方がもう一度学び直すという事も推進しています。これから第四次産業革命、IoTと呼ばれている時代の中で、おそらく若い人も学び直しの人もいろいろなカリキュラムを通して、プログラミングを勉強し、皆様の業界に入っていく人材が急速に増えていくと思います。そういった中で、皆様の業界が単にきついというイメージだけでなく、創造的で楽しくて給与が高い業界になってほしいと思っています。そのためには、いわゆる受託型ビジネスからサービス提案型のビジネスへ転換していくことが非常に重要だと思っています。先ほど会長がおっしゃったように、まだまだデジタル化していない業界がたくさんあると感じています。

経済産業省では Connected Industries として製造現場やサービスの現場に大量に眠っているデータをコネクトすることで、企業を超え業界を超えてビックデータとして活用することで、日本の製品サービスの品質を上げて世界に勝っていくという構想を掲げています。このことを実現するような魅力的なサービスを、JISAの皆様にはご提案いただきたいと思います。皆様方の業界は非常に将来性があります。これからどんどん人材も流れ込んでくるわけであります。皆様方の業界がしっかりと発展し、日本経済の成長を引っ張っていただくよう心から祈念をし、経済産業省としても全面的に支援していくことをお誓い申し上げまして、新年ご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

乾杯挨拶

独立行政法人情報処理推進機構

理事長 富田 達夫

新年あけましておめでとうございます。日頃、JISA の皆様には様々な事業を通して、協力・支援の関係を持たせていただいております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

先程、世耕大臣から Connected Industries に向けてというお話がありましたが、まさに産業の構造が大きく変わろうとしております。今、日本では IT エンジニアが 75%ベンダー側にいるという状況です。世界の中では特異なことですが、しかしこれを強みにしていくということが出来なくはないとも思っています。



横塚会長がおっしゃるように、どれだけ我々がユーザーにとって本当に価値のあるものを提案できるにかかっていると思っています。情報サービス産業そのものも恐らく痛み伴いながら大きく構造改革をしていかなければならないと思っています。横塚会長のリーダーシップのもと、皆様方が自分自身を変革しながらお客様の変革に寄り添っていくことが、日本全体にとって大きな力になるのではないかと思っています。

IPA にとっても今年は大きな年であり、第三期の中期 5 ヶ年計画も今年の 3 月に終わり、第四期に入るところです。ご存じの通り、サイバー攻撃はますます巧妙化しており、ビッグデータもありとあらゆるデータが国境を越えていく。このことはさまざまな問題をはらんでいます。

昨年は技術面において AI、IoT がありましたが、今年は量子コンピューター、RPA などがでてきました。IPA としてはサイバーセキュリティを始め、データをどのようにハンドリングしていくかなど、施策として皆様にどう提供できるか、経済産業省のご指導をいただきながら骨太の IPA として準備している最中です。是非皆様と一緒に、Connected Industries のチャンスを活かし、IT を使って生産革命や働き方改革などを進めていくという掛け声を起こしていきたいと思っております。

ここにお集まりの皆様が、新しい時代を作るという意気込みで今年一年を進めていただきたいと思います。